

「資質・能力ベース」で単元を描く ―単元の板書記録から―

第5学年 単元名：資料で伝える！新型コロナウイルス感染症予防！
教材名：「環境問題について報告しよう」（東京書籍 5年）

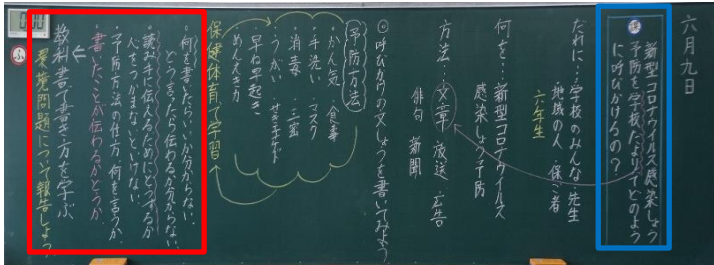
【本単元で付けたい力】写真や図表・グラフ等の資料から情報を読み取り、目的や意図に応じて資料を関係付けて活用し、自分の考えが伝わるように説得力のある意見文を書くこと。

【設定した言語活動】「新型コロナウイルス感染症予防」の報告文を基に、感染症予防を全校児童や家族、地域に提案する活動



発行 令和2年7月
高知市教育委員会
学校教育課 学力向上推進室
公開授業の案内や申し込み・レポートは、高知市教育委員会 学校教育課のHPをご参照ください。他のレポートも多数掲載！

本時までの単元の記録（毎時間、単元で育てたい「資質・能力」（赤い囲み部分）を明確にする）



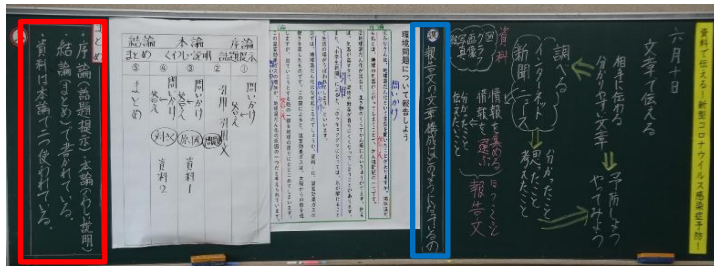
一時間目

校長先生からの依頼を受けて、感染予防を呼びかける方法を考え、これからの学習の見通しをもつ。



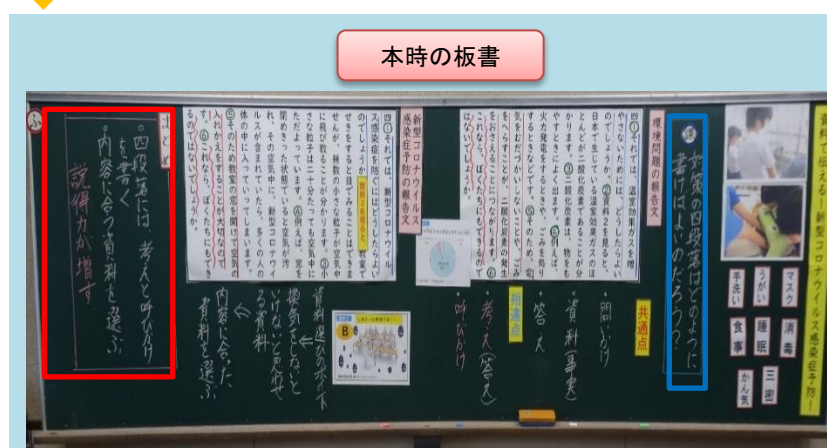
六時間目

教科書教材から、資料を活用した説得力のある書き方をつかみ、「新型コロナウイルス感染症」の原因の段落を書く。



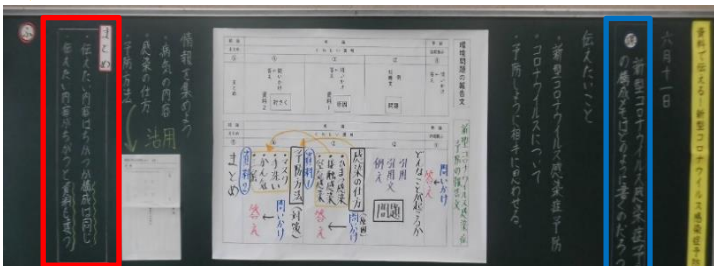
二時間目

教科書教材から、説得力のある報告文の構成をつかむ。



七時間目

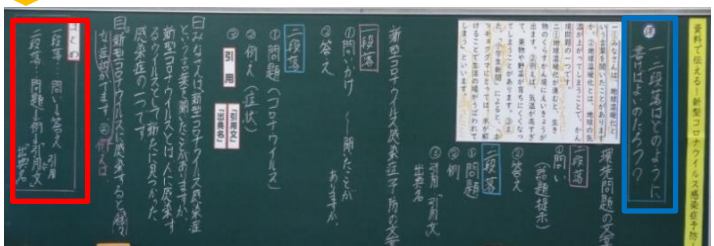
本時は、前時の「原因」の段落を受けて、教科書教材から報告文の「対策」の段落を書くポイントを見つけ出し、「新型コロナウイルス感染症予防」の自分自身の報告文の「対策（感染予防）」を書くことに生かすという提案であった。始めに保健体育の学習内容や、手洗いチェッカー体験を想起させる。その後「原因」の段落で使った資料に関連付けて「対策」の資料を選んだり、資料から読み取った事実と考えを区別したりまとめたりして、呼びかけや伝えたいことを取り入れて自分の考えを書く。そのために、教科書教材を一文ごとに分析的に読み、「原因」の段落との相違点を見付けながら関係性を捉えた。



三時間目

教科書教材の文章構成をから、「新型コロナ感染症予防」の報告文を書くための効果的な文章構成を考える。

四時間目は、コンピューター室等で資料集め



五時間目

教科書教材から、「問い（話題提示）」と「答え」、「引用」などをつかいた説得力のある報告文の書き方をつかむ。

参加者（秦小の先生方）の感想

★「わかる⇔できる」を1時間で行き来するやり方は、子どもにとってはスモールステップで進められ、毎時間「できる」を実感できるという良さがある。また教師にとっては毎時間の評価ができ、子どもたちのつまずきにすぐに手立てがうてるよさがある。今後の実践に生かしたい。
★評価規準を基に、どの時間、どの内容を、どう評価するのか評価方法を明確に示すことは、その時間に何を指導するのか教師自身が意識して取り組むことができる。「評価メモ」に記録することでC評価の子どもたちにすぐに指導ができる。日々の記録の大切さを感じた。

協議1

本時において、「わかる」から「できる」が関連付き、資質・能力の育成につながっていたか。

協議より
○教科書の一文一文に何が書かれているか考え、関係を捉えさせることで、自分の文章構成をつかめていた。資料を複数用意していたので、伝えたい内容と関連付けて選択できていた
★モデル文は、資料と報告文との関連を捉えさせるのが目的であれば、その部分だけ掲示すればよかったのではないかと。

「能力ベース」の単元構想

教えるべきことはしっかり教え、思考させたり使わせたりすべきことは、使いこなせるまで繰り返す。「わかる」で終わらせず、「できる」まで粘り強く積み重ねて、言葉の力を育てる。

協議2

育成したい資質・能力と学習評価のつながりは適切であったか。

協議より
○今まで書くことは、書き終えた文章で評価していた。育成したい資質・能力の三つの柱に沿って評価しないと「書くこと」の評価はできないことが理解できた。
○「評価メモ」を活用することでC評価の児童への手立てを意識して取り組めることがわかった。全員B基準を達成するため取り組んでみたい。

授業者の振り返り



横山 信吾 教諭

「わかる」から「できる」授業にするために、内容ベースの考え方から資質・能力ベースの考え方を知り、実践を行った。子どもたちは、第二次で理解したことを使って表現する活動を行き来することで「新型コロナウイルス感染症予防」の報告文を書くことができた。教科書文から書き方を理解し、学んだことを使って書く活動を繰り返すことで、今回の単元での「学び方」が定着していったように思う。
また、指導したことと評価を一体化させ、評価規準、評価方法を明確にし、「評価メモ」に記録することで、指導内容をより意識して授業を行うことができた。単元を通して身に付けさせたい資質・能力を明らかにすること、次に、適切な言語活動（ゴール）を設定していくこと、その上で、単元計画、1時間1時間の課題設定をしていくことで「資質・能力」ベースの授業づくりを考えていくことができた。各教科、単元に身に付けさせる資質・能力がある。難しいことだが、授業づくりの際、まずは、それらを考え、明らかにして日々の授業づくりに努めていきたい。